

宇宙スキル標準（試作版） 有効性評価アンケート結果

2025年9月10日

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

有効性評価アンケート結果（1/12）アンケート実施概要

1. 目的：

宇宙スキル標準（試作版）の理解度・改善点・宇宙産業に対する印象の変化等、スキル標準の有効性に関する調査を実施し、宇宙スキル標準（決定版）作成の参考とするため。
2. 調査期間：

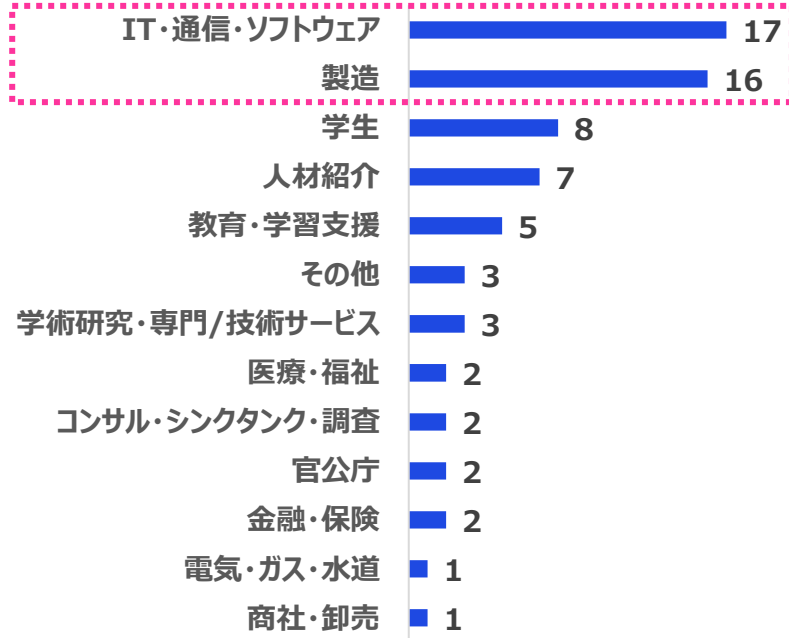
2025年7月15日~2025年8月15日
3. 調査方法：

Webアンケートシステム（展示会ブース来訪者、事務局がリレーションを有する組織の方々に展開）
4. 調査対象：

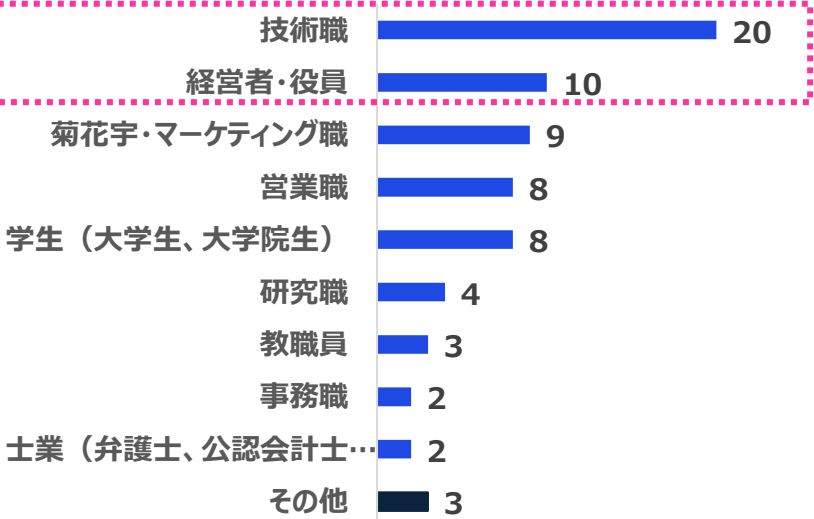
大学生、社会人、人材エージェント、宇宙関連企業の人事担当者等
5. 回答数：

69名

【回答者の業種】

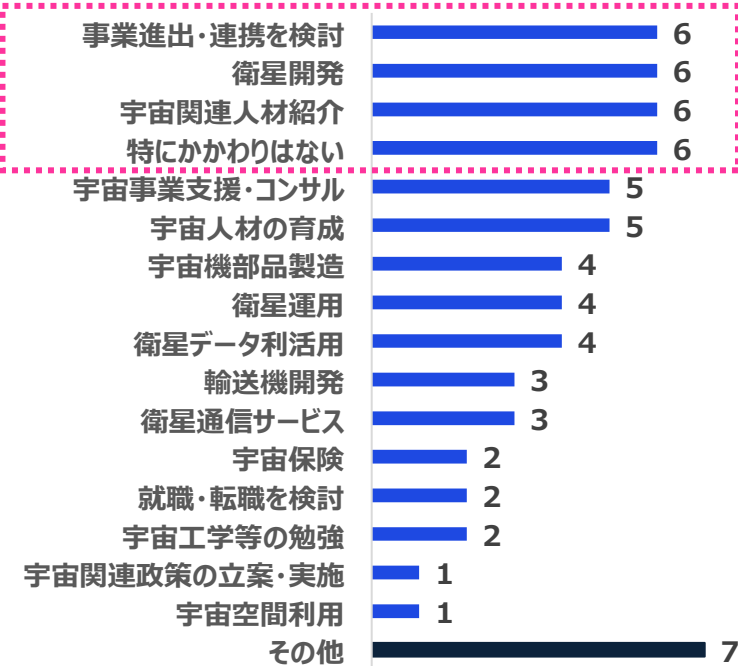


【回答者の職種】



- 製造業・技術職が約半数
- 「宇宙業界に関わりはない」、「事業進出・連携を検討している」が20%近くいる。

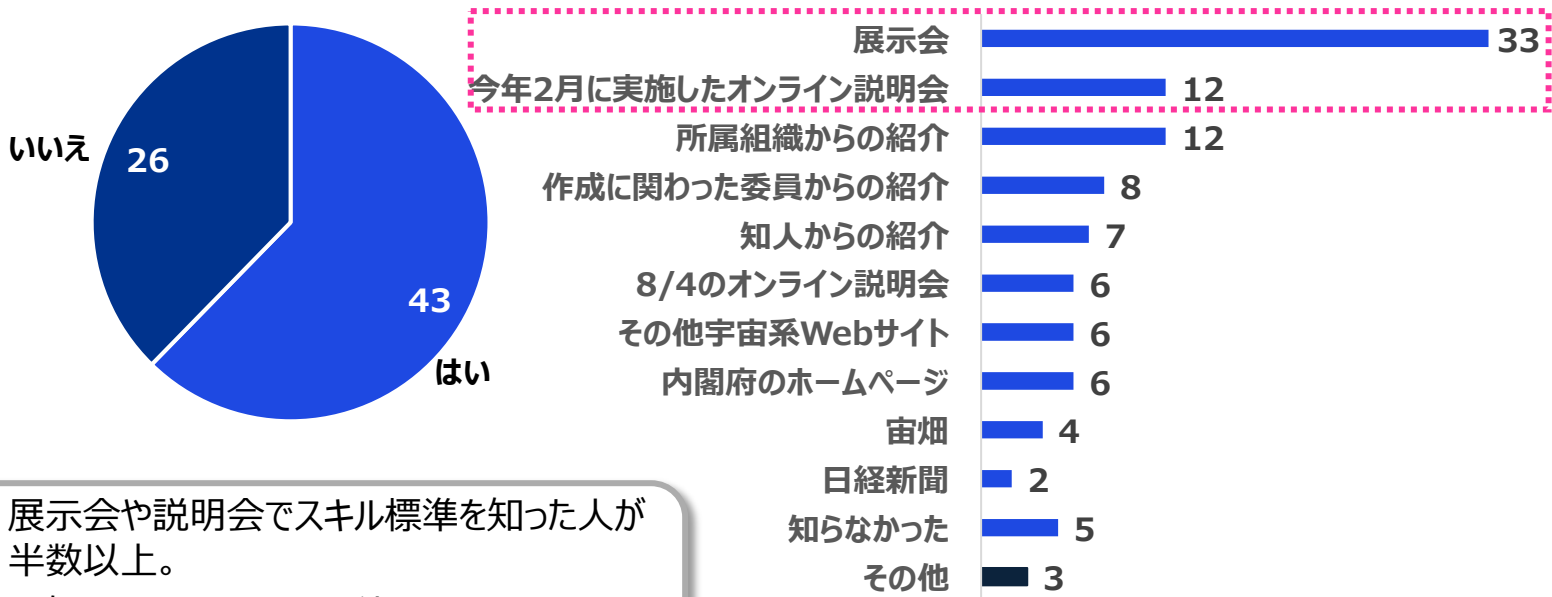
【回答者の宇宙業界との関係性】



有効性評価アンケート結果（2/12）スキル標準の認知度・内容理解度について

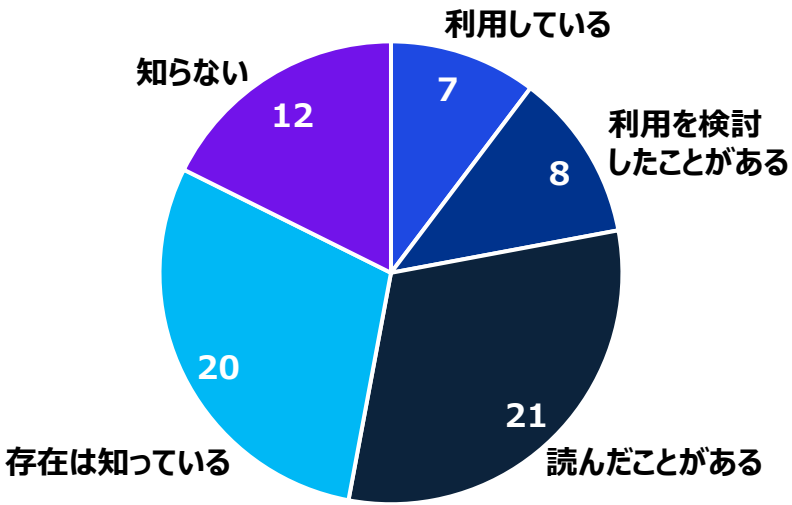
- 回答者のうち62%(43/69)が「宇宙スキル標準を知っていた」と回答。回答者には宇宙業界に属していない層も含まれており、**業界外にも情報が届いていることが分かった**。
- 宇宙スキル標準の周知において、事務局が実施している展示会出展やオンライン説明会などが最も効果的である(48/69)ことが分かるが、所属組織や委員・知人からの紹介も一定の役割を果たしていることが分かる。
- 宇宙スキル標準は一定の認知を得ているものの、実際の活用にはまだ至っていない層が多いことが示されている。今後は、「**宇宙スキル標準の存在は知っているが、利用に至っていない層**」に対して**理解を促す工夫**が求められている。

【宇宙スキル標準を聞いたことはあるか】 【どこで知ったか・情報を得たか（複数選択可）】



- 展示会や説明会でスキル標準を知った人が半数以上。
- 認知はしているものの、利用に至っていない層が多く、内容理解を促す工夫が必要。

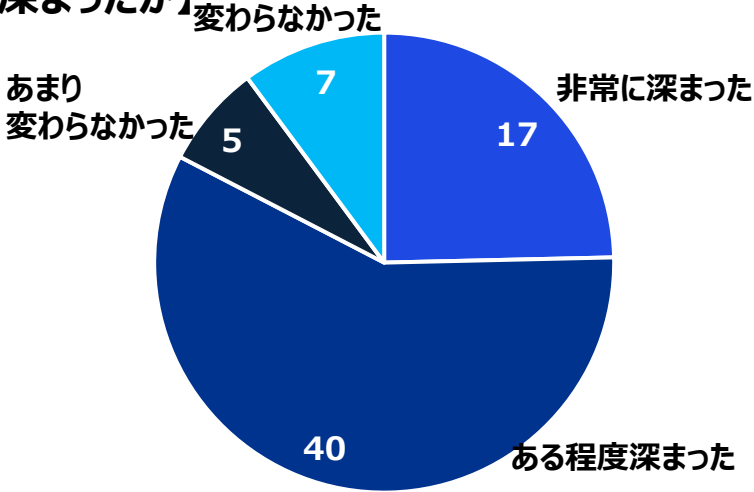
【宇宙スキル標準の内容をどの程度理解・利用しているか】



有効性評価アンケート結果（3/12）宇宙業界に対する印象について

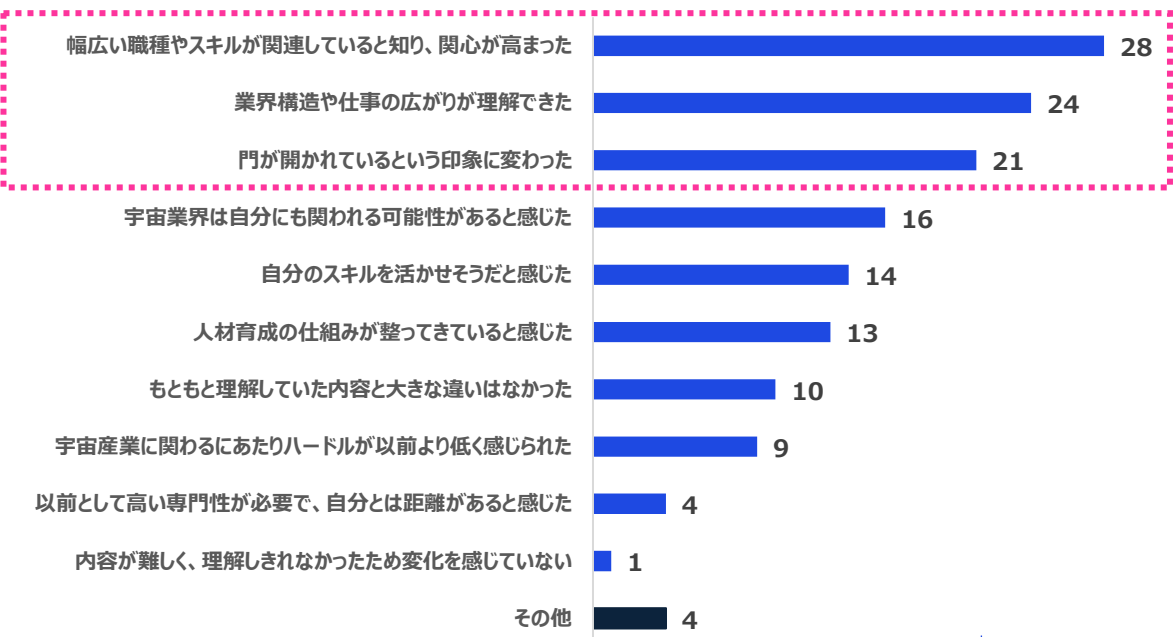
- 宇宙スキル標準は、**宇宙業界に対する閉鎖的・専門的という先入観を払拭**し、多様な職種やスキルが関与する開かれた業界という印象を与える効果があることが示唆される。
- 関心の高まりや自己の関与可能性への気づきが多く見られることから、宇宙スキル標準は人材流入を促進するツールとして効果を発揮している可能性が高い。
- 一方で、**依然として専門性の高さを感じる人もいるため、今後はより平易な言葉で内容を伝えたり、具体的な活用例を示したりすること**で、より多くの人にとって身近な存在にしていく工夫が重要となる。

【宇宙スキル標準を知ったことにより、宇宙業界への理解度はどの程度深まったか】



- 回答者の多くが、宇宙スキル標準を知ることによって宇宙業界への理解が深まったと感じている。
- 「業界の門戸が広く開かれている」という印象を持ったという意見が多くみられた一方で、「依然として高い専門性が必要」と感じた意見もある。

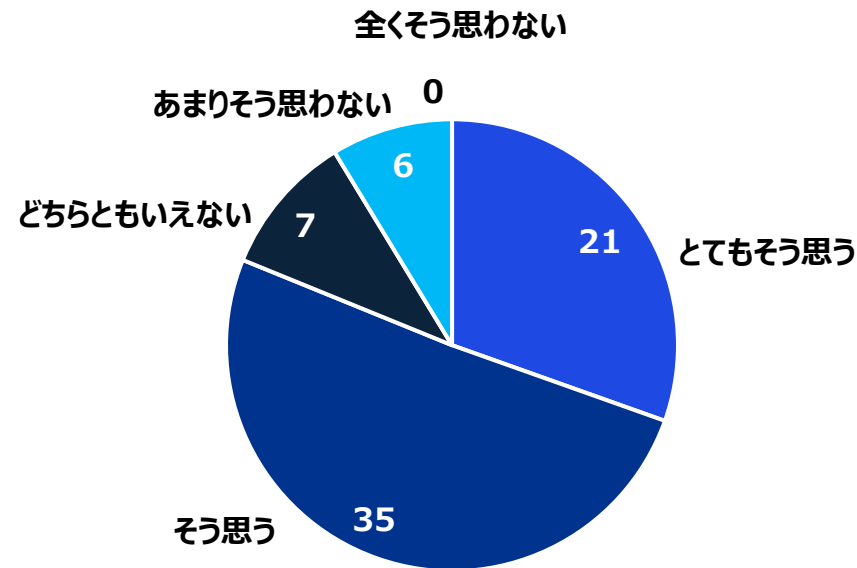
【宇宙業界に対する印象はどのように変わったか/変わりそうか】



有効性評価アンケート結果（4/12）宇宙スキル標準の活用意欲

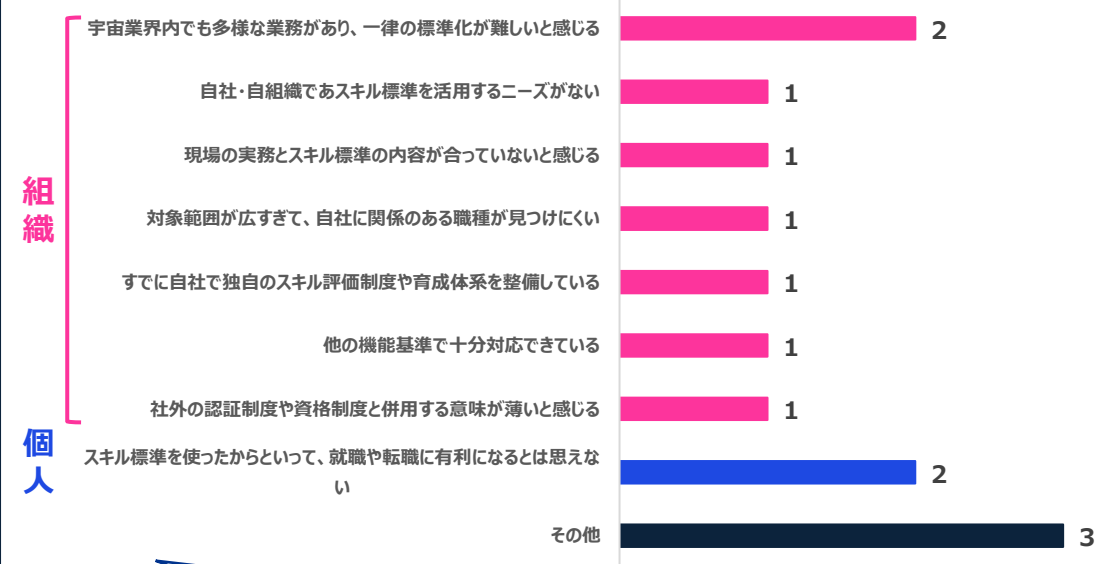
- 前設問で 6 割程度いた「認知しているが利用に至っていない層」において、**多数の方が「利用したい」と思っており**、今後さらなる活用・導入が期待される。
- 一方で、宇宙スキル標準の**組織内での導入の仕方や期待効果の理解についてハードルがある**ことが分かり、導入に向けた事務局のサポートや内容の改訂が課題であることが分かった。

【宇宙スキル標準を実際に利用してみたいと感じるか】



- 全体の81%（「とてもそう思う」21/56、「そう思う」35/56）が肯定的に回答。
- 「あまりそう思わない」と回答した理由としては、宇宙スキル標準の読み解きにくさ・納得感に関する課題あり。

【「あまりそう思わない」と感じた理由】



- 【その他】
- ・ロケット開発系に偏っていて、衛星開発系のスキルが網羅されていない
 - ・国内しか通用しないように感じる

有効性評価アンケート結果（5/12） 宇宙業界における人材面の課題

- 宇宙業界の人材面に関する「育成方針・マニュアルの欠如」（21件）が多く、次いで課題としては、「育成段階での指導者不足」（27件）や「評価制度の不明確さ」（23件）や「採用時に必要スキルを提示できていない」（19件）など、**人材育成・評価・採用の各フェーズにおいて課題が広く存在**していることが明らかとなった。

【宇宙業界における人材面の課題（複数回答可）】

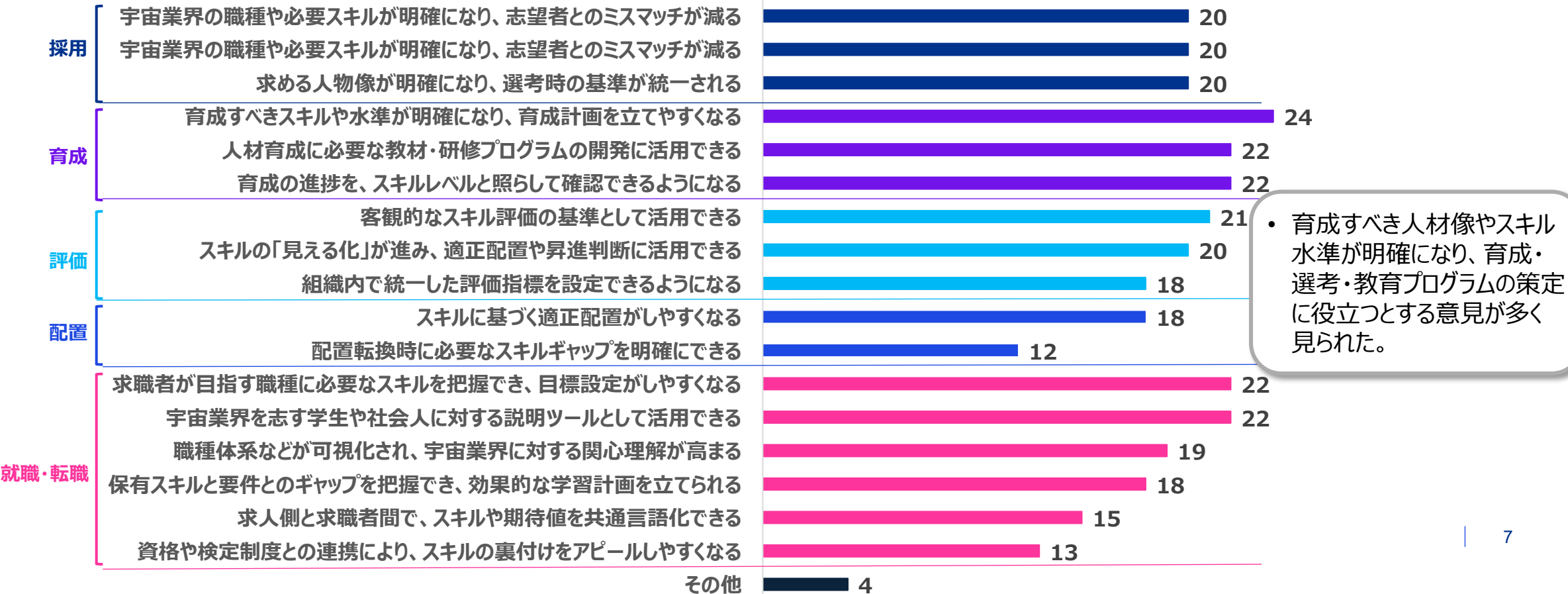


- 「採用した人材を育成するための人材・指導者が不足している」が最も多く挙げられた。
- また、「評価基準が不明確であり、正当な評価が難しい」という課題も指摘された。

有効性評価アンケート結果（6/12）宇宙スキル標準の課題解消力

- 宇宙スキル標準の活用によって期待される効果としては、「必要スキルの明確化」、「育成計画の策定」、「育成効果の可視化」、「教育訓練の質向上」など、**育成面での人的基盤を強化する機能**が多く挙げられている。
- また、「必要なスキルの明確化」や「各スキルの具体的な説明」により、**非宇宙業界の人材にとって就職・転職の機会を創出**することに貢献できると考えられる。

【宇宙スキル標準を利用することで、具体的にどのように課題を解消できると感じるか】



有効性評価アンケート結果（7/12）スキル標準について良いと感じた点

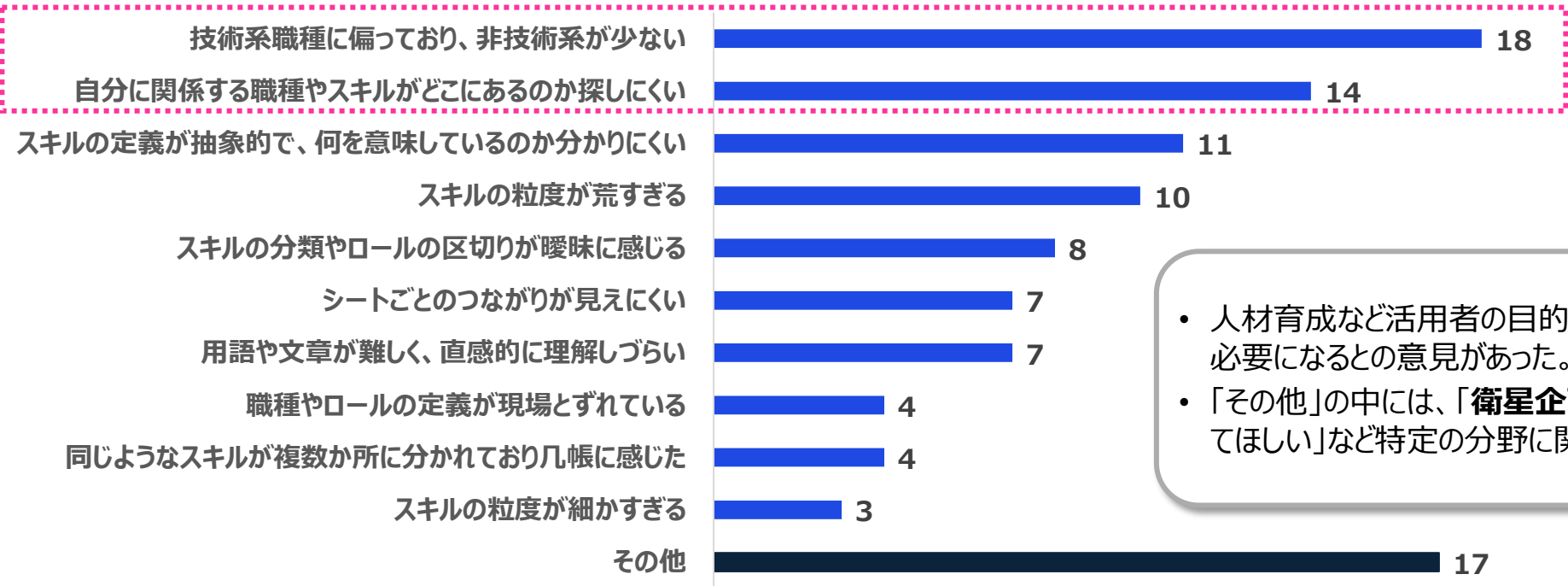
- ロールやキャリアパスをベースに紐づくスキルや業務を確認できることが読み手には有効であることから、新たな職種や業務領域の追加を検討する際も、**既存ロールとの整合性を意識した設計が求められる。**
- 専門性を抑えた表現や汎用性のあるスキル記述が支持されていることから、**文言の平易化や他産業との共通性を意識した表現の工夫を継続することが望ましい。**



• 構造の明確さと対象の広さが評価されている。
• 専門性を重視しすぎず、扱いやすい表現になっている点や、業界全体の視点を反映している点も一定の支持を得ている。

有効性評価アンケート結果（8/12）スキル標準について改善すべきと感じた点

- 技術系業務に偏っており「非技術系のスキル」が少ないという指摘が最も多く寄せられている。令和7年度に作成している宇宙スキル標準（決定版）で非技術系のスキルをまとめることが重要視される（＝対応予定）。
- スキル定義の抽象性や文書の難解さに関する指摘も多く、平易な表現への見直しや具体的な業務例の追加によって、理解しやすさを高めることが求められる。



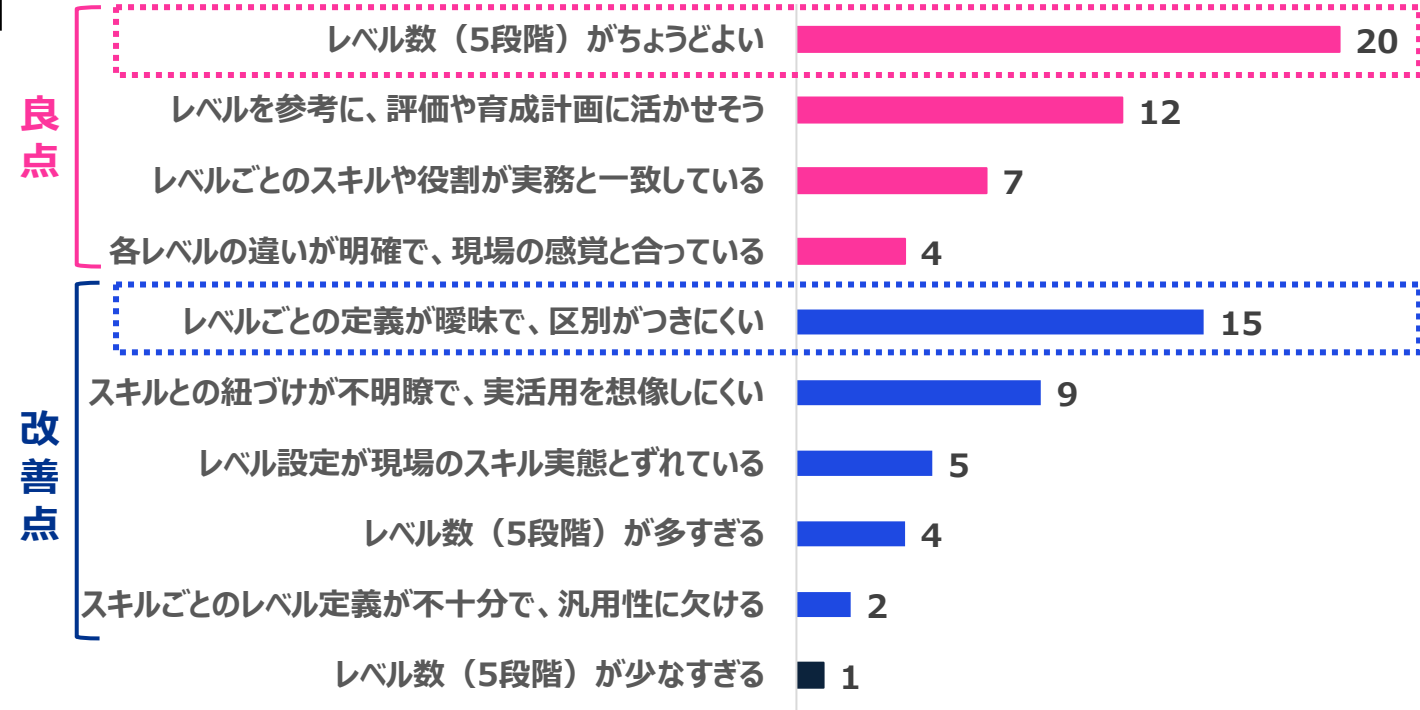
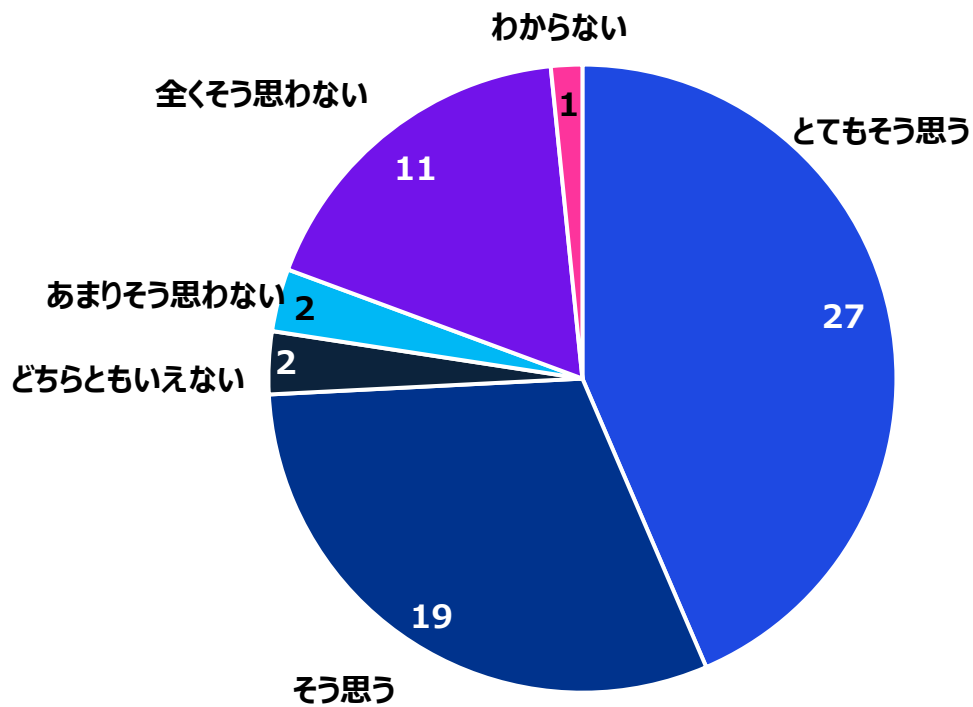
• 人材育成など活用者の目的次第では、より細かい分解が必要になるとの意見があった。

• 「その他」の中には、「衛星企画からデータ利用まで網羅してほしい」など特定の分野に関する追加要望が寄せられた。

有効性評価アンケート結果（9/12）スキルレベルについて

- レベル数自体は概ね妥当とされている。
- 一方で、レベルごとの定義の区別がつきにくいという指摘もある。レベルの達成を明確に測定する手法がないことがレベルの定義が曖昧であるという結果につながっているといえる。

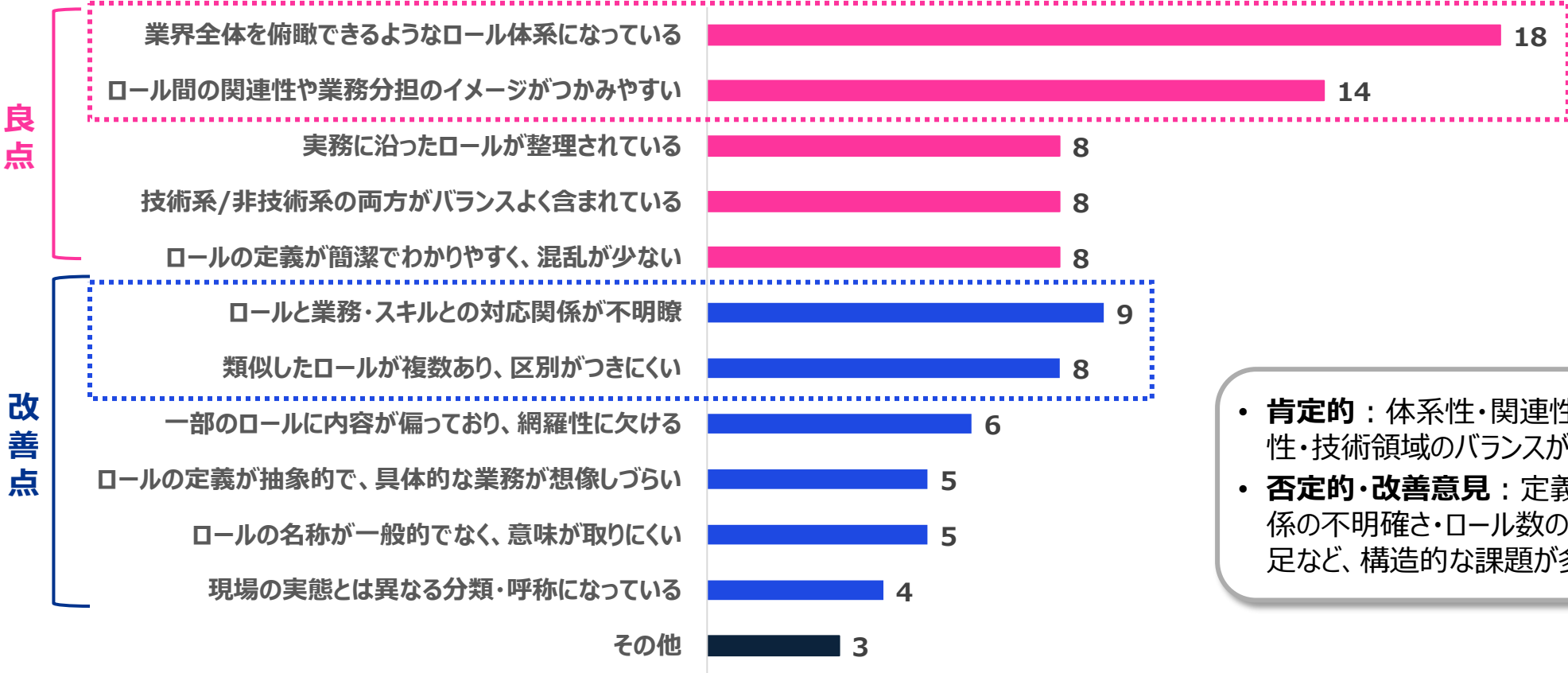
【レベル設定は現場の実態に即していると感じるか】



- 「そう思う」（約43.5%）が最多
- 肯定的意見：「5段階がちょうどよい」「管理計画に活かそう」など
- 否定的意見：「差異が曖昧」「業務イメージがしにくい」など

有効性評価アンケート結果（10/12） ロールについて

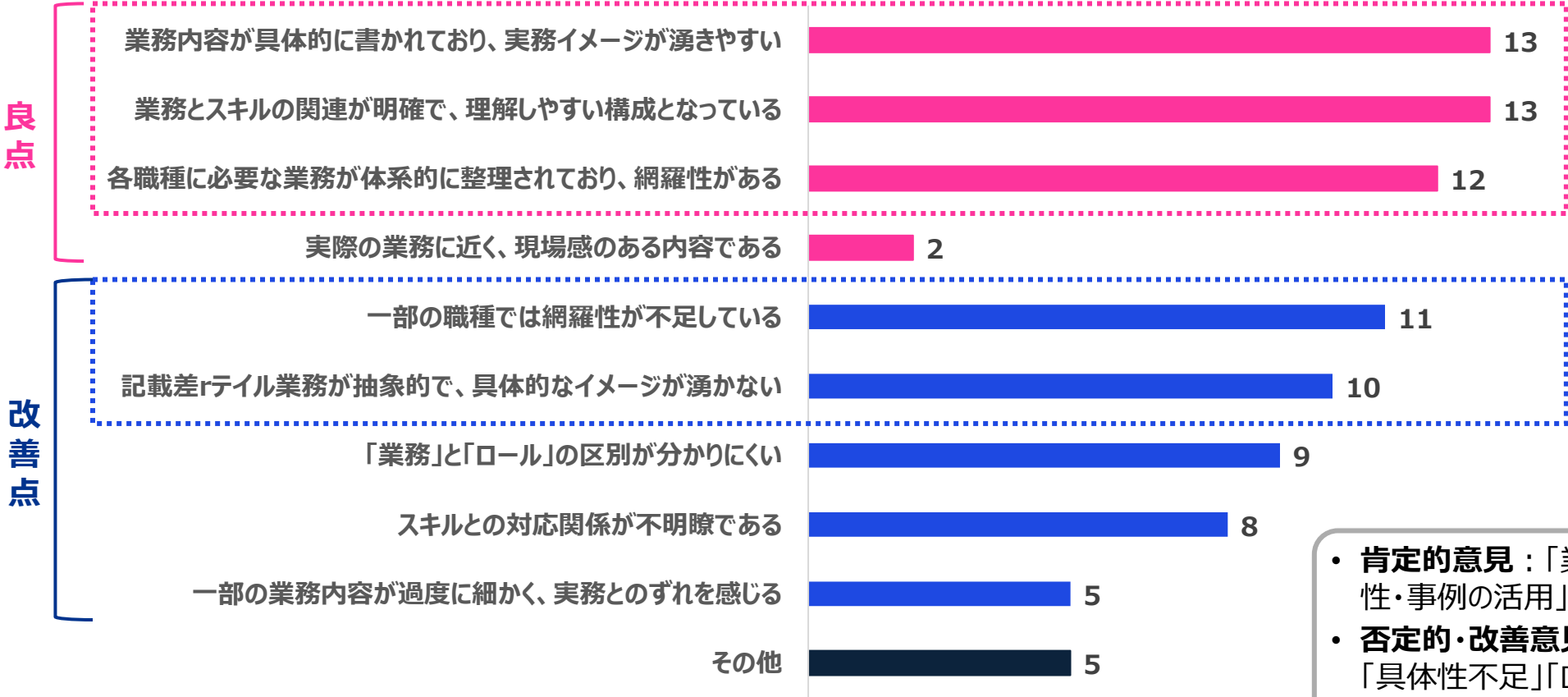
- ロールについて、分かりやすいという回答も多いものの、「ロールと業務・スキルの対応関係が不明確」という回答も多くある。実務との接続性を高めるために、**各ロールに対する具体的な業務例・必要スキルの例の提示が必要**。



- **肯定的**：体系性・関連性・実務との整合性・技術領域のバランスが評価された。
- **否定的・改善意見**：定義の曖昧さ・対応関係の不明確さ・ロール数の多さ・網羅性の不足など、構造的な課題が多く指摘されている。

有効性評価アンケート結果（11/12）業務について

- 「章節によって詳細さが異なる」「一部が過度に細かい」「全般的すぎる」といった回答があり、業務項目の粒度を整える工夫が求められている。



- 肯定的意見：「業務記載の具体性」・「体系的性・事例の活用」が高く評価。
- 否定的・改善意見：特に「情報のばらつき」「具体性不足」「ロールとの区別の不明瞭さ」が課題。

有効性評価アンケート結果（12/12）教育プログラム・資格等の参考情報について

- 教育プログラム・資格等の参考情報が「スキルの可視化」や「学習意欲の向上」に寄与していることが明らかとなった。
- 目標に基づいた体系的な設計や、スキル重視の評価が実践的であるとの声が多く、**現場での活用可能性が高い**ことが示唆される。
- 複数の学習プログラムや資格体系を提示することで、選択の幅を広げるとともに、年齢層や国際的なニーズにも対応できるようにする必要がある。

